

令和5年度
RESASを用いた秦野市の分析

秦野商工会議所

テーマ

1. 人口
2. 産業構造
3. 小売業・卸売業
4. 製造業
5. 地域経済循環
6. まちづくり・観光

1. 人口

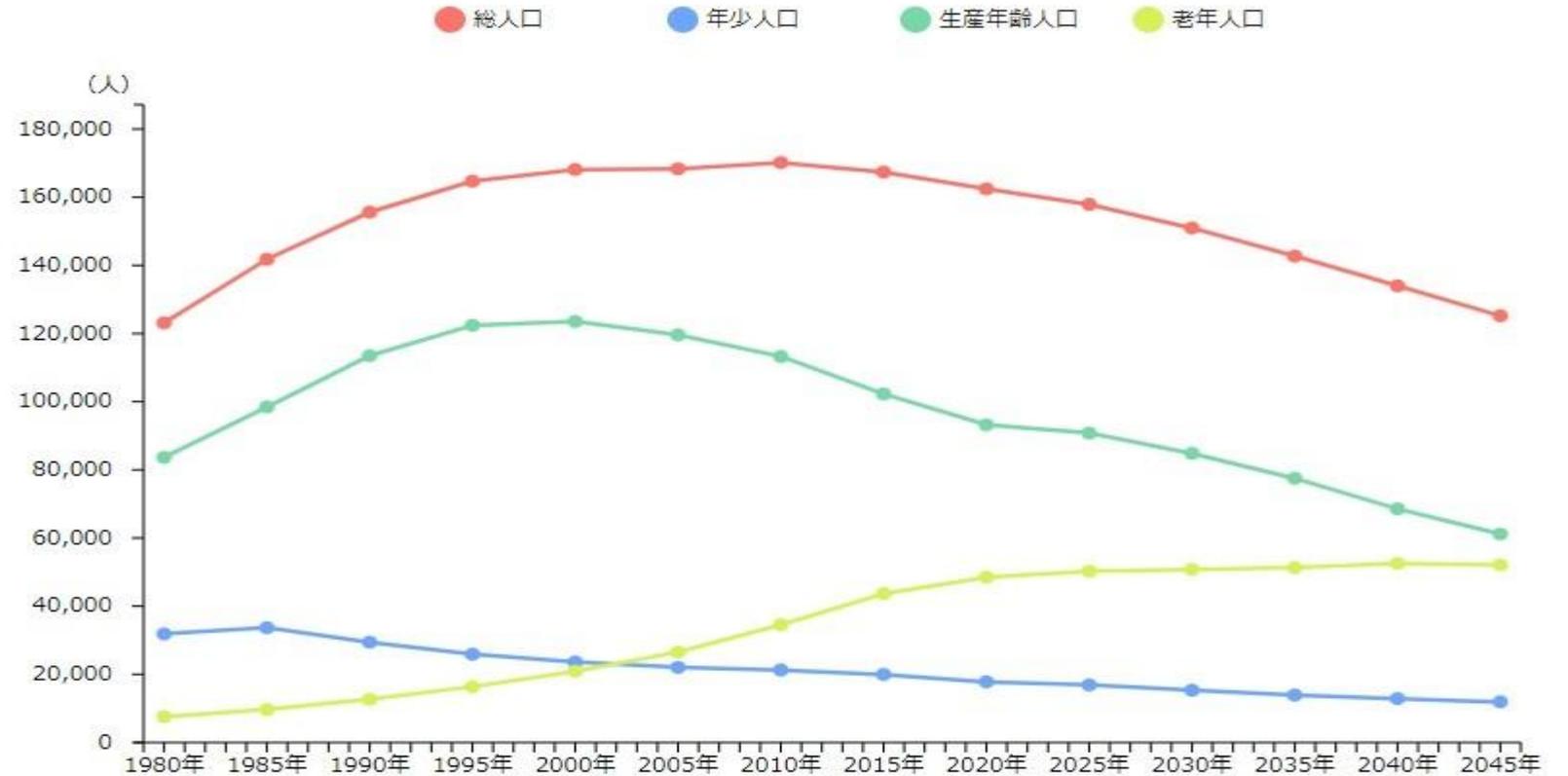
年齢別人口推移（1）

●人口は2010年（平成22年）170,417人をピークに減少し、2030年には157,604人となると推定される。

人口構成の内訳別にみると

- ①生産年齢人口は、2005年119,625人から減少に転じ、2020年では96,667人で2005年の80%まで減少している。
- ②年少人口は、1985年以降緩やかではあるが減少している。
- ③高齢人口は、1980年以降年々増加しており2020年は48,828人となっている。

2045年迄の予測では、総人口125,209人、年少人口11,934人、生産年齢人口61,176人まで減少し高齢人口だけが52,099人と増加する。



出典：RESAS 人口構成 2020年

年少人口 …15歳未満の人口
生産年齢人口…15歳以上65歳未満の人口
老年人口 …65歳以上の人口

1. 人口

年齢別人口推移（2）

●2010年以降の人口減の要因

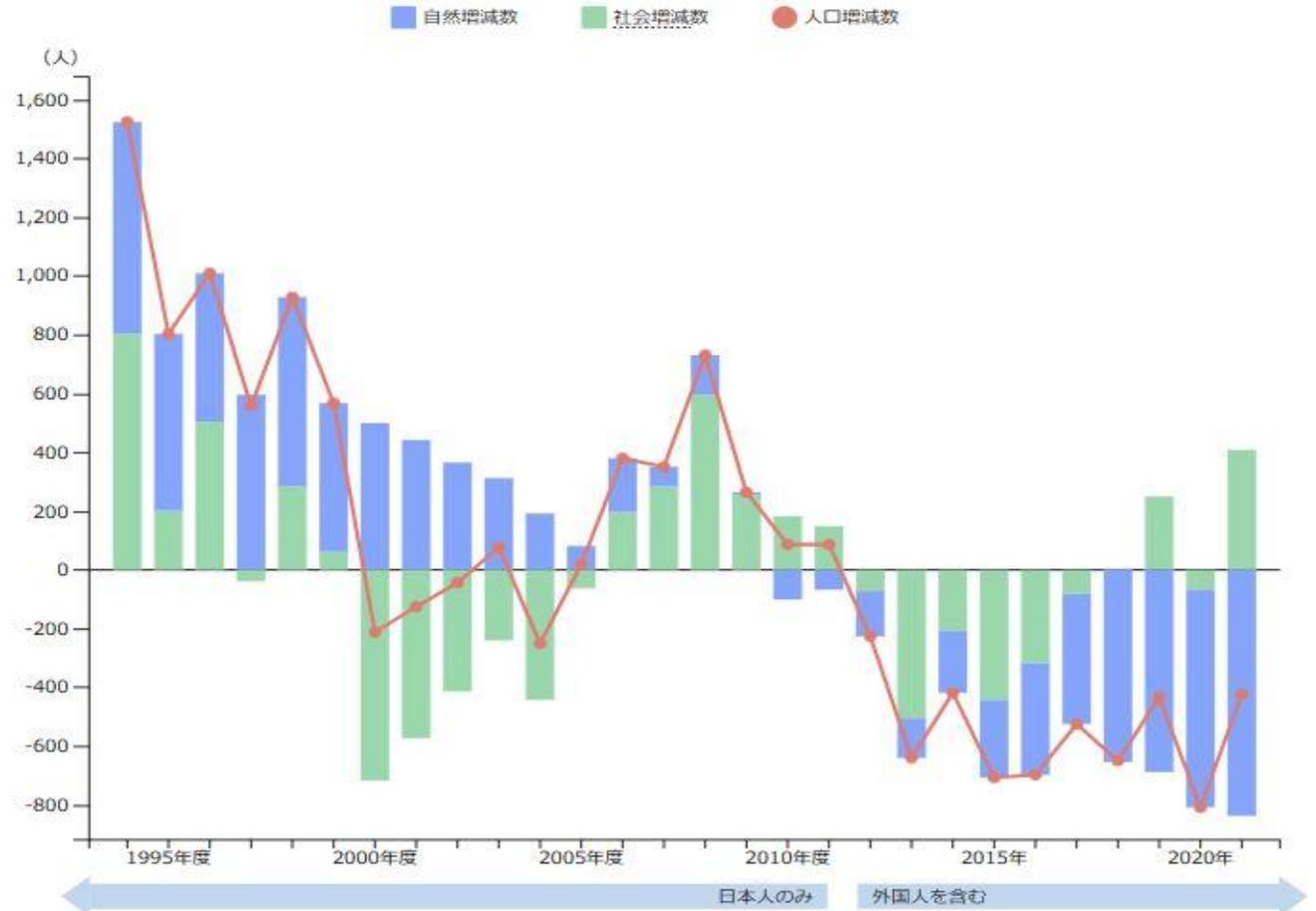
2008年リーマンショック以降世界的な不況の影響を受け、自動車関連等の製造業を中心に事業規模の縮小と人員整理がといった合理化が進められた。

人口推移を自然増減、社会増減で見ると

- ①自然増減…出生数と死亡数は2010年を境に出生数を死亡数が上回る状況が続いている。
- ②社会増減…2012年転入数5,766人、転出数5,837人と転出数が上回り、2020年迄転出超過が続いている。このことは、生産人口の減少及び総人口の減少に大きく影響していると思われる。

自然増減・社会増減の推移(折れ線)

神奈川県秦野市



1. 人口

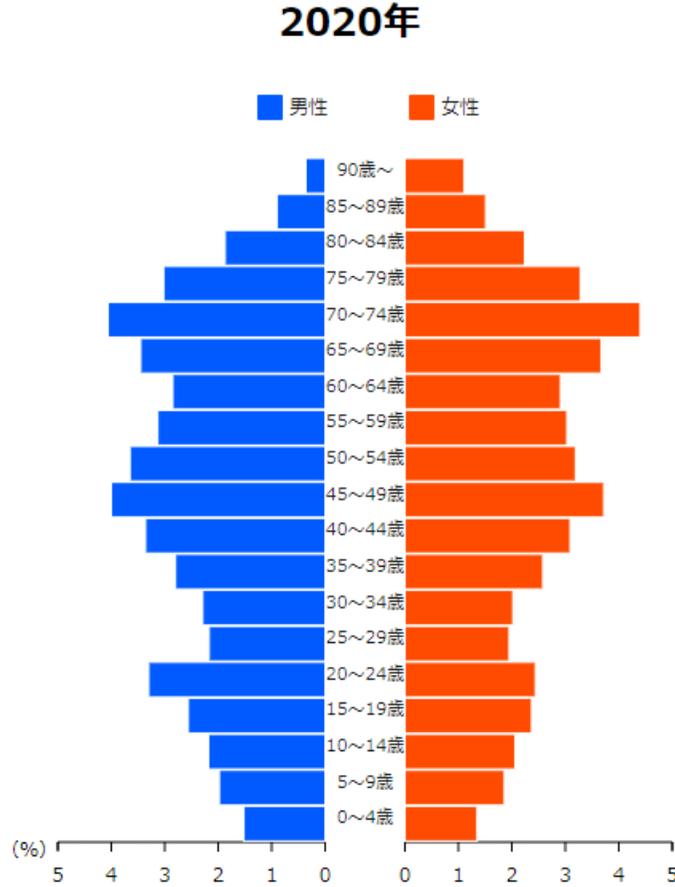
人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。

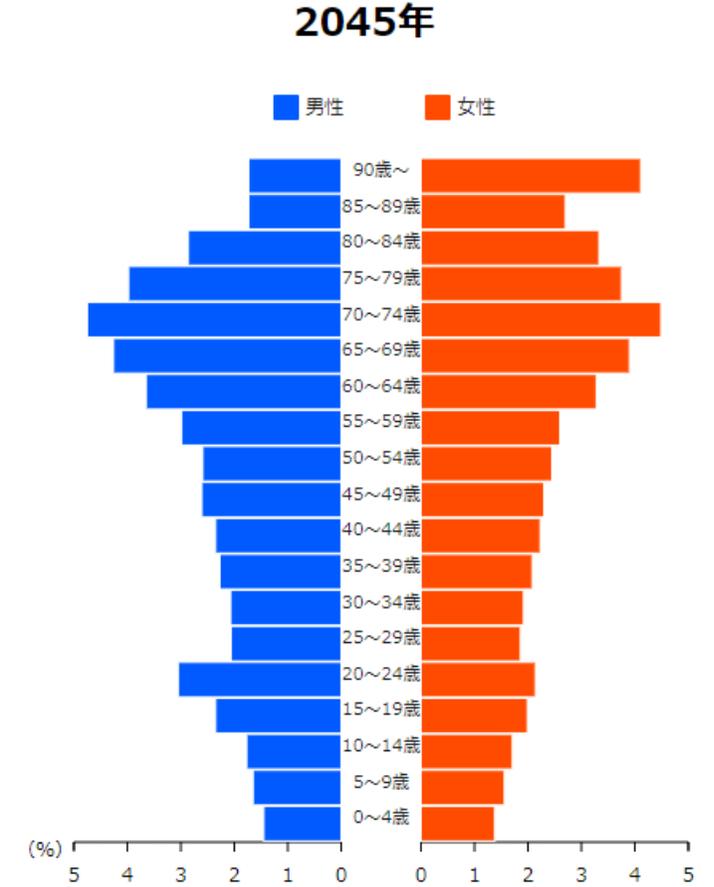
老年人口の割合をみると、

2020年の30%から2045年には40%まで増加する。

一方、生産年齢人口は2020年の57%から2045年には48%まで減少する見込みである。一方、年少人口はほぼ横ばいで推移している。年少人口に該当する方が、生産年齢人口に推移した後、秦野市にどれくらい残っていただけるかが課題となる。



老年人口 (65歳以上) : 48,518人 (29.87%)
生産年齢人口 (15歳~64歳) : 93,225人 (57.39%)
年少人口 (0歳~14歳) : 17,797人 (10.96%)



老年人口 (65歳以上) : 52,099人 (41.61%)
生産年齢人口 (15歳~64歳) : 61,176人 (48.86%)
年少人口 (0歳~14歳) : 11,934人 (9.53%)

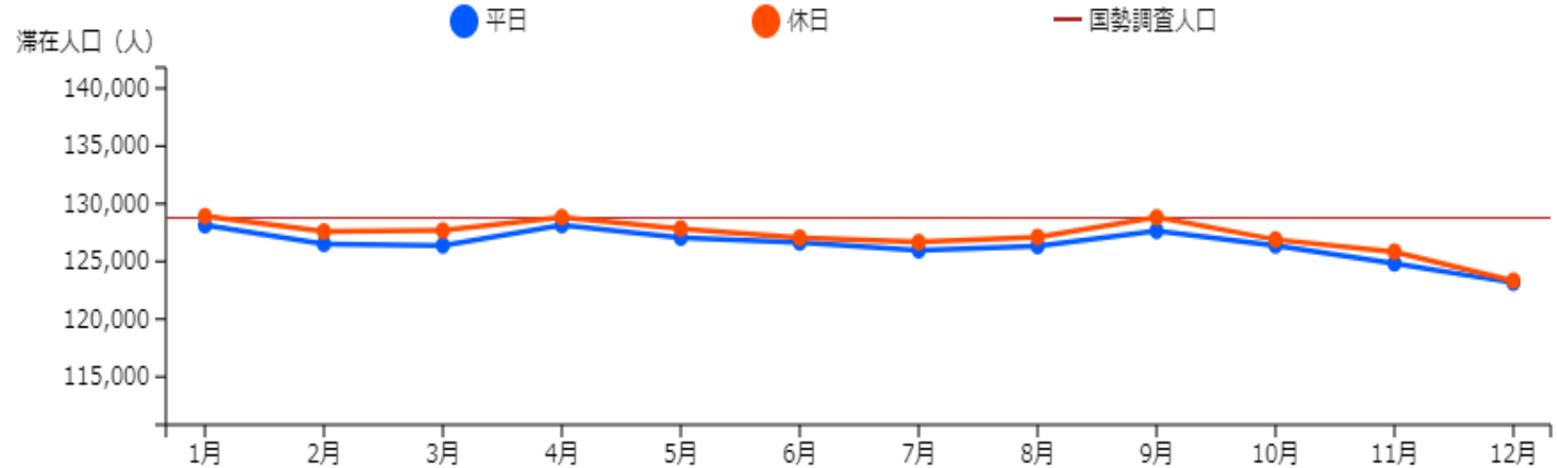
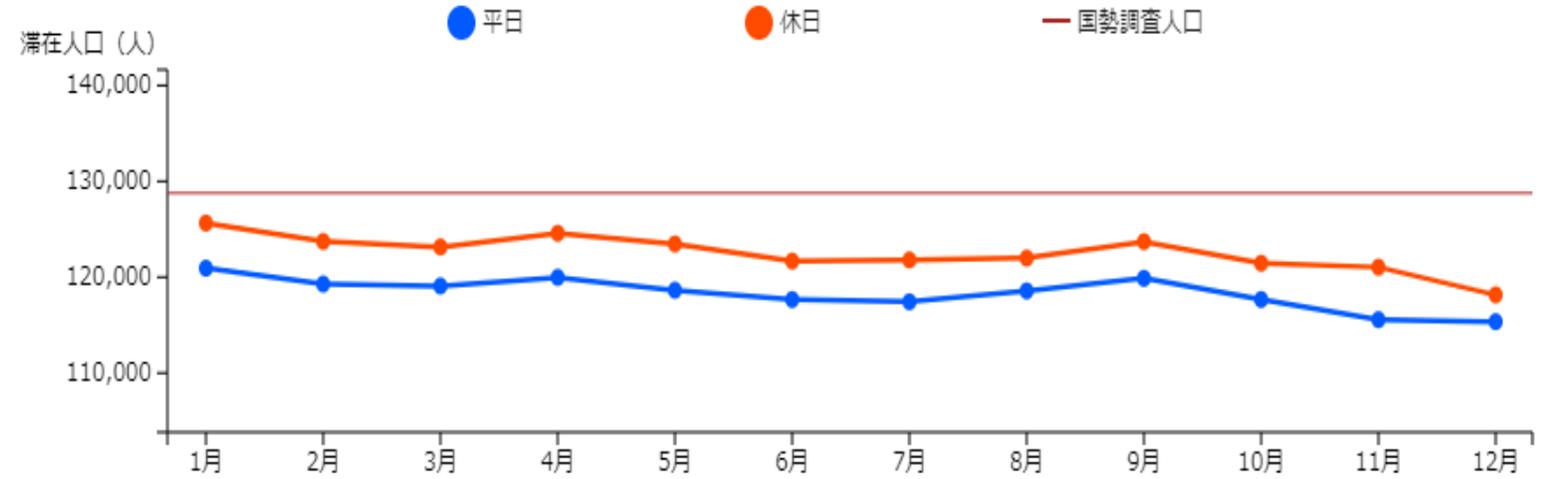
1. 人口

滞在人口

秦野市滞在している人の数を月ごとに示したグラフである。

※昼間は14時、夜間は20時にデータを掲載している。

休日の方が滞在人口は多い。このことから、観光や買い物でいらっしゃる方が休日は多いことが想定される。月別にみると、1月、4月、9月が他の月よりも多いことがわかる。



2. 産業構造

事業所数（事業所単位）大分類

業種ごとの事業所数を面の大きさで示したグラフである。

もっとも多いのは「卸売業, 小売業」で939事業所（全体の21.6%）。

その後、「宿泊業, 飲食サービス業」の529事業所、「医療, 福祉」の468事業所が続く。

上記3つのカテゴリーで全体の約半分弱を占める。このことから、市内の事業所構成は、一般消費者向けの事業者が多いことがわかる。

事業所数(事業所単位):4,343事業所



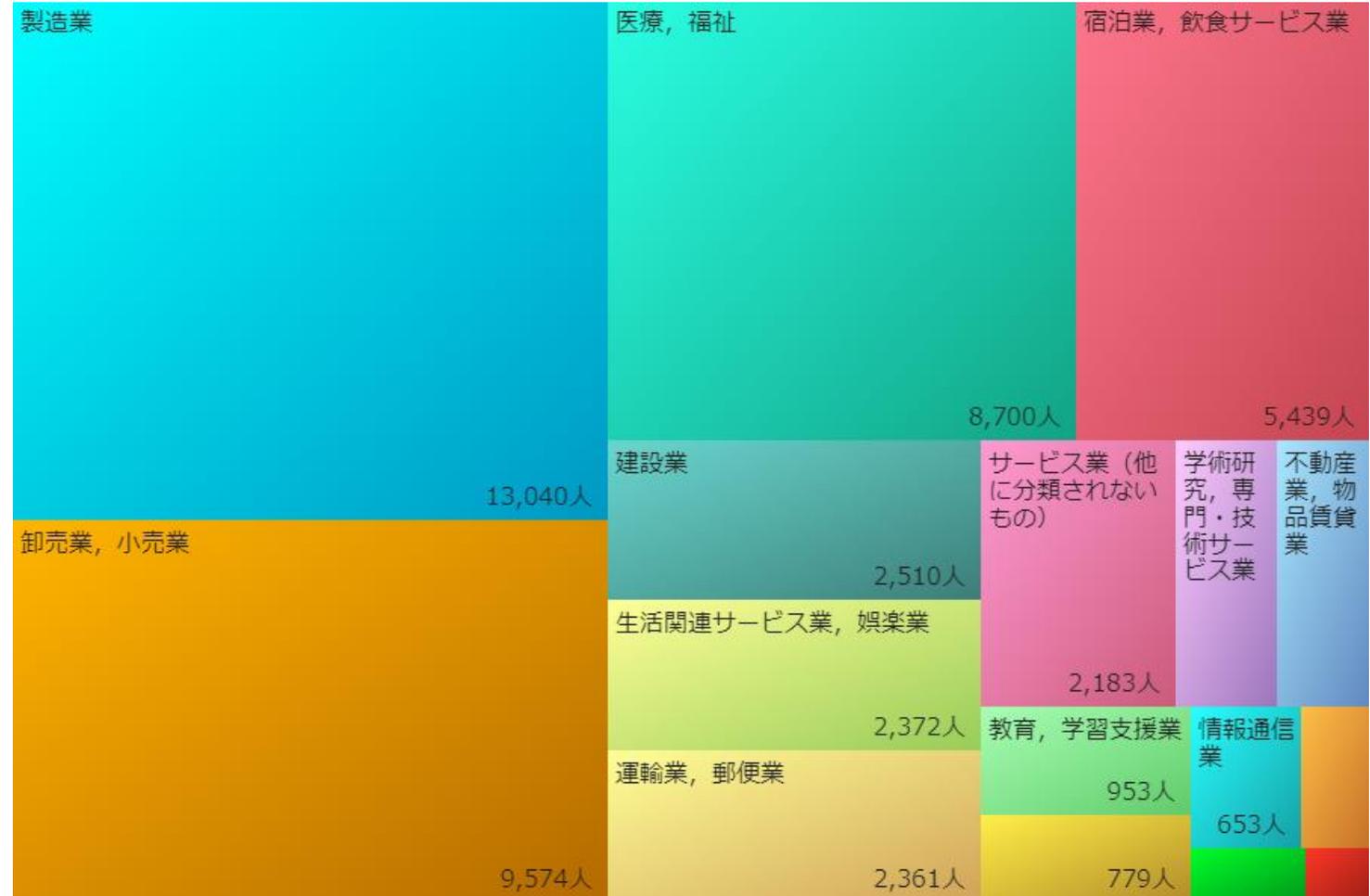
2. 産業構造

従業者数 (2021年)

業種ごとの従業者数を面の大きさで示したグラフである。もっとも多いのは「製造業」で、13,365人（全体の26.0%）。その後、「医療,福祉」の9,884人、「卸売業,小売業」の9,235人が続く。

事業所構成では製造業事業者数は第6位（383社）であったが、従業者数では第1位となっている。このことから市内製造業は大企業で、従業員数が多いことがわかる。

従業者数(事業所単位):51,372人



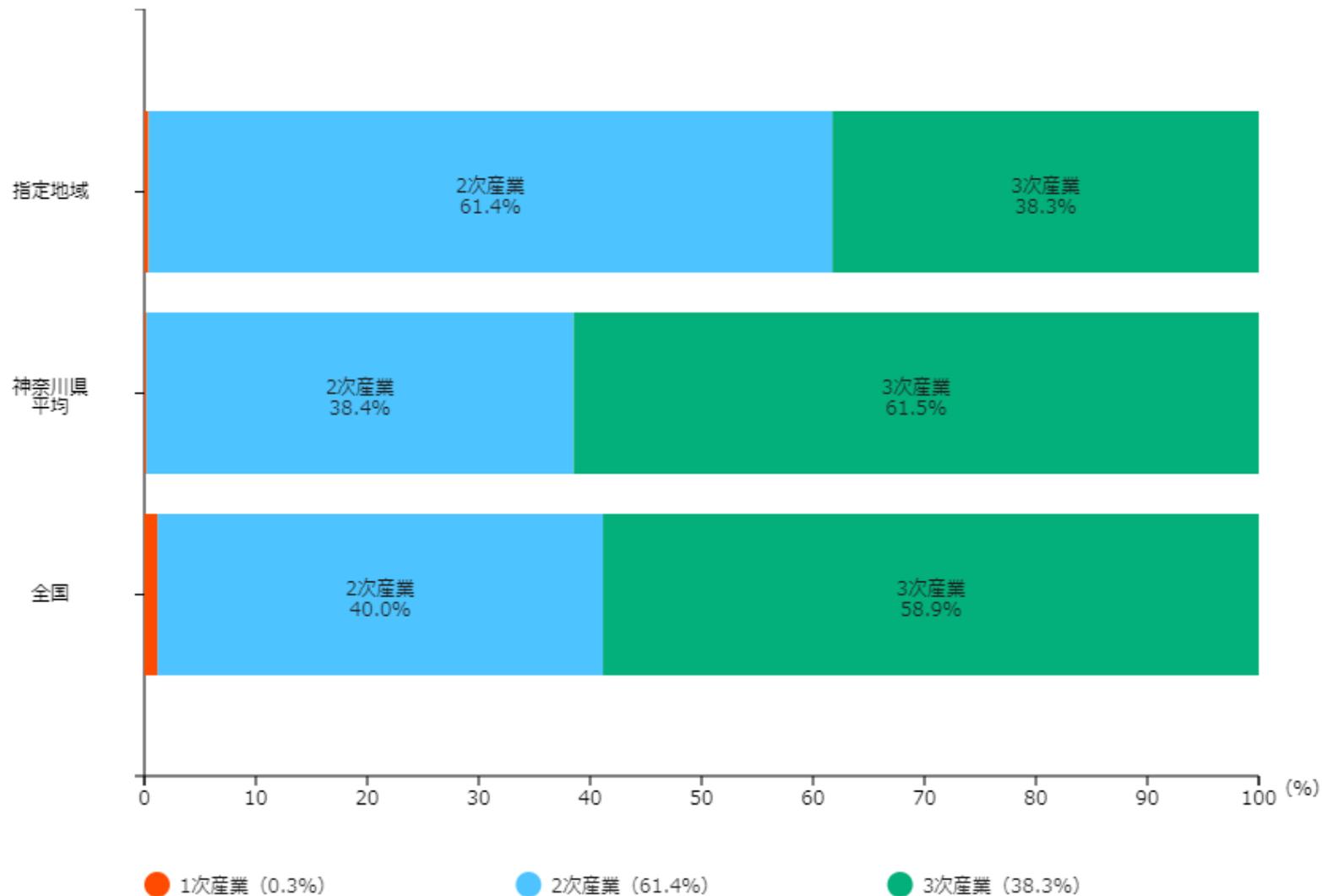
2. 産業構造

地域内産業の構成割合

秦野市の産業の構成割合を全国および神奈川県と比較したグラフである。

秦野市は全国・神奈川県平均と比べて2次産業の割合が20%ほど高く、3次産業の割合は20%ほど低い。

この背景に、他地域で採取、生産されたものを、当市内で加工している事業者が多いことがわかる。当市は東名高速道路など輸送網が発達しており、加工して当市から発送するケースが多いと思われる。



3. 小売業・卸売業

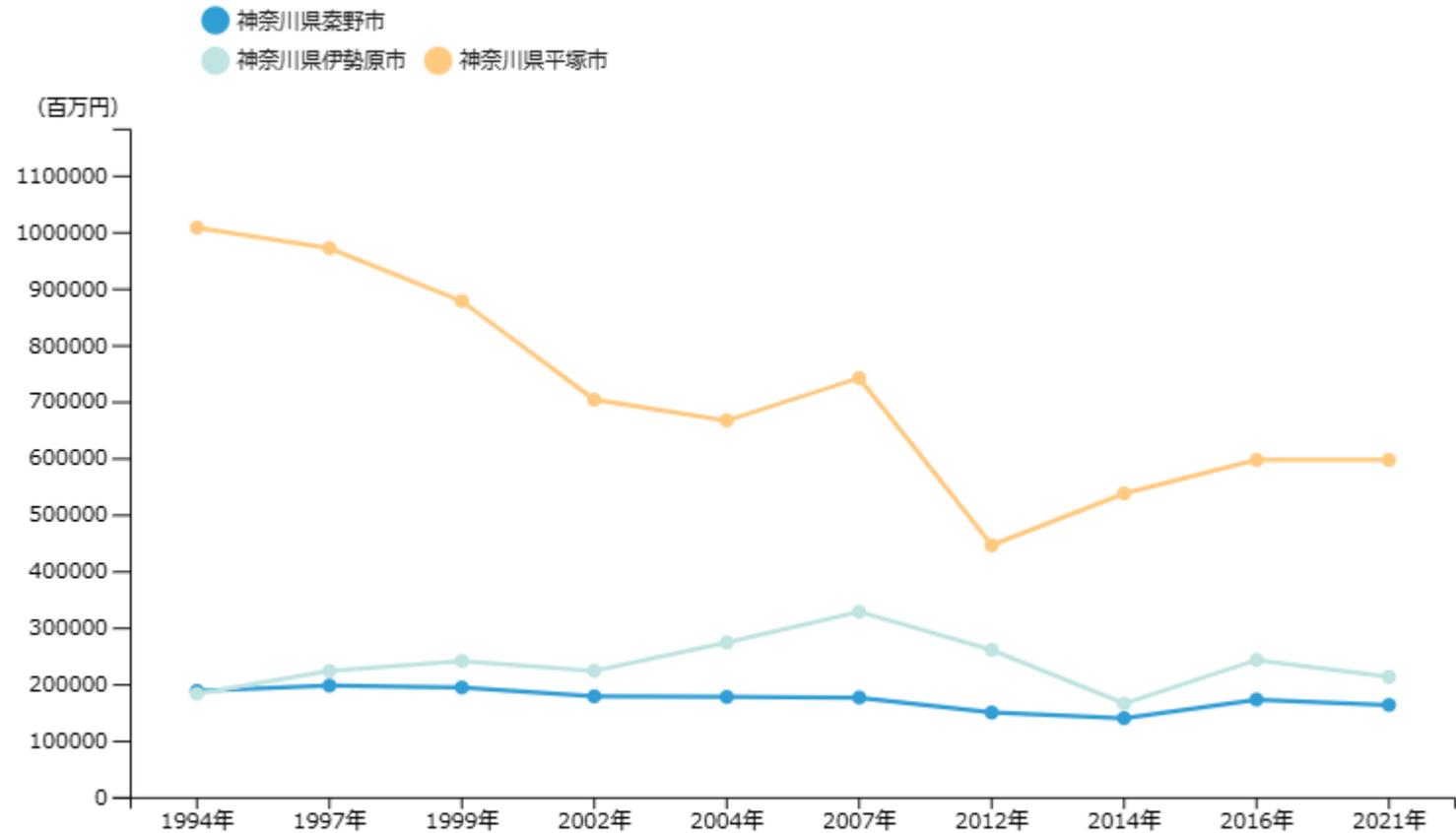
年間商品販売額 の推移

小売業・卸売業の年間商品販売額の推移を示したグラフである。

秦野市の販売額は1,646億円。

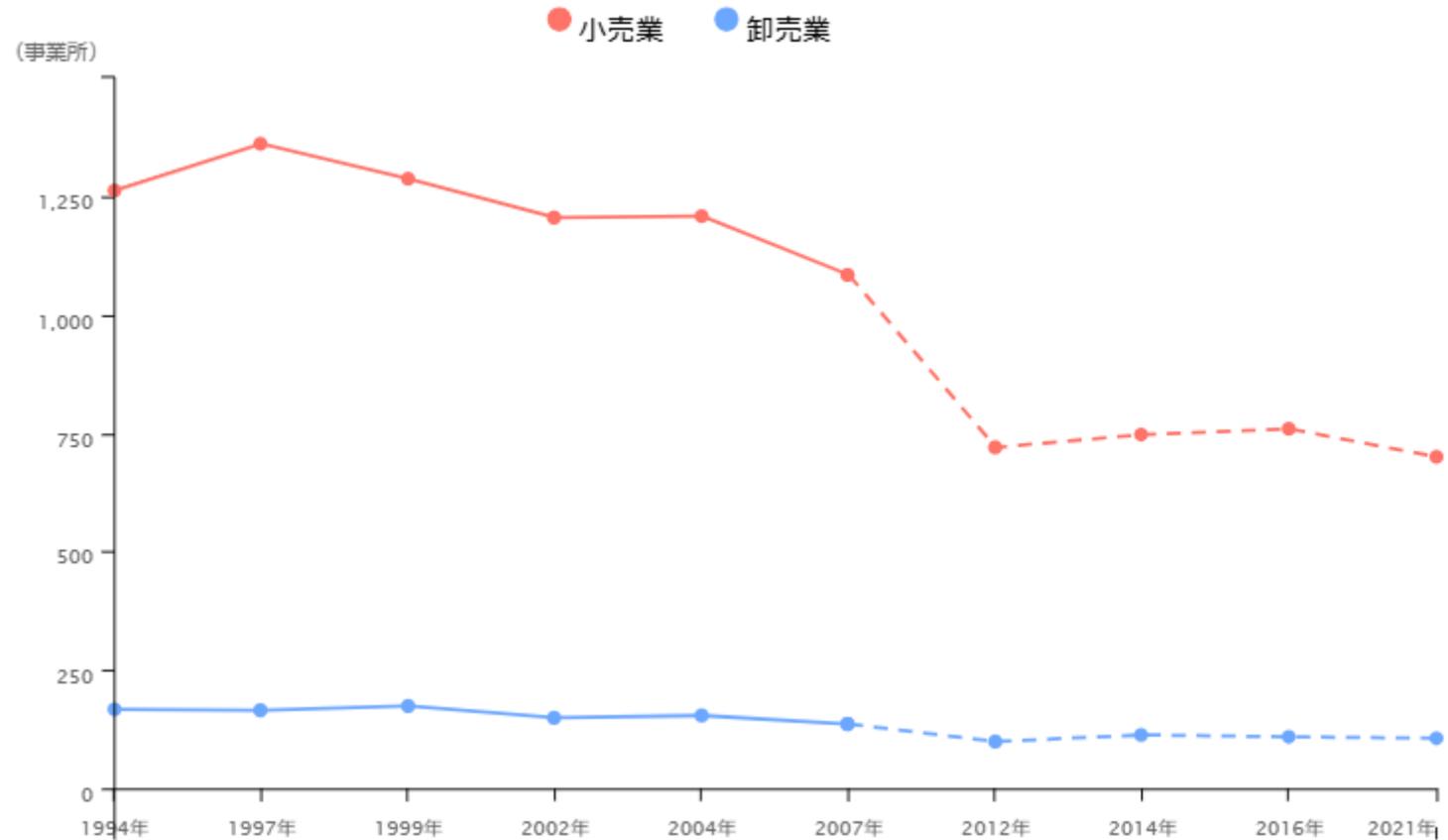
14年前の2007年と比較すると7.3%減である。

他地域をみると、平塚市は19.5%減、伊勢原市は25.9%減となっている。当市は、他地域と比べると減少幅は小さく、ほぼ横ばいと言える。



3. 小売業・卸売業 事業所数の推移

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は、小売業700事業所、卸売業109事業所。14年前の2007年と比較すると、小売業は35.4%減、卸売業は22.0%減となっている。



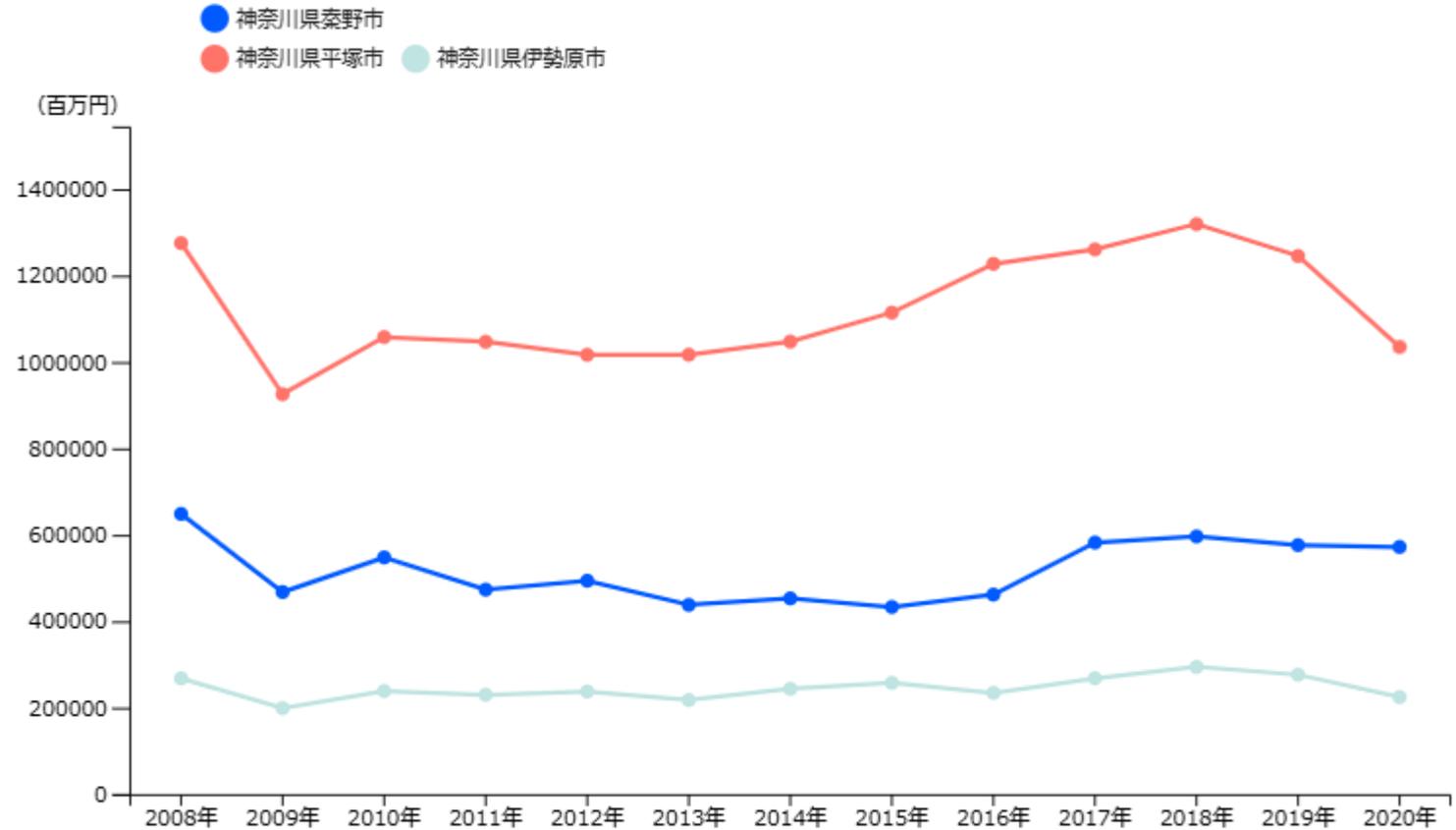
4. 製造業

製造品出荷額等 の推移

製造業の製造品出荷額等の推移を示したグラフである。

秦野市の出荷額等は5,742億円。10年前の2010年と比較すると4.2%減である。

他地域をみると、平塚市は2.0%減、伊勢原市は5.8%減となっている。2009年はリーマンショックの年だったこともあり、大きく落ち込んだ。2009年以降は横ばいかやや増加となっている。



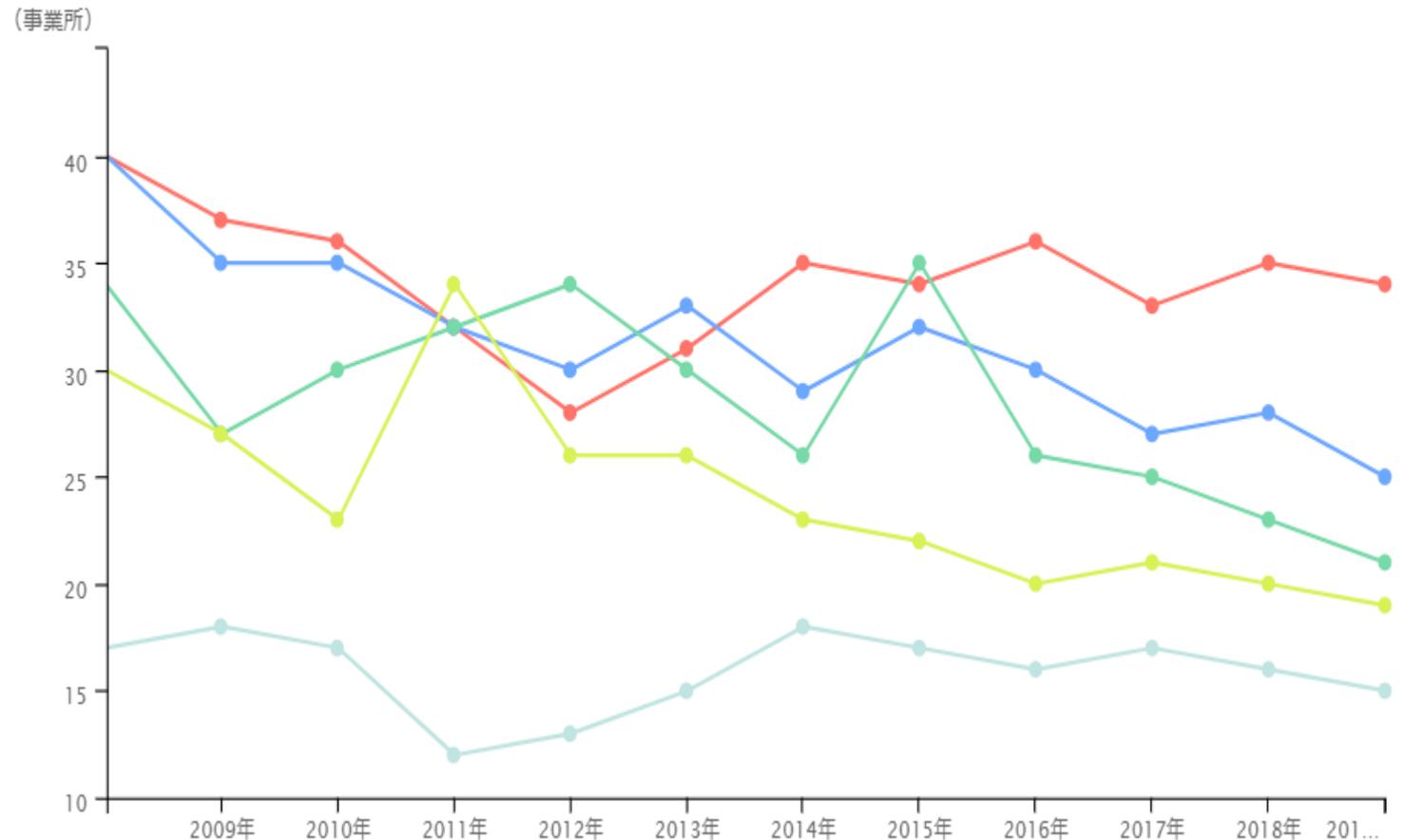
4. 製造業

事業所数の推移

主要製造業の事業所数の推移を示したグラフである。

秦野市には金属製品製造業が多い。2012年までは減少傾向だったが、それ以降は増加に転じ、以降横ばいとなっている。輸送用機械器具製造、生産用機械器具製造、電気機械器具製造は減少の一途をたどっている。背景には、安い人件費で海外に拠点を移した事業者が一定数いると思われる。

● 金属製品製造業 ● 輸送用機械器具製造業 ● 生産用機械器具製造業 ● 電気機械器具製造業 ● プラスチック製品製造業 (別掲を除く)



5. 地域経済循環

地域経済循環図 (2018年)

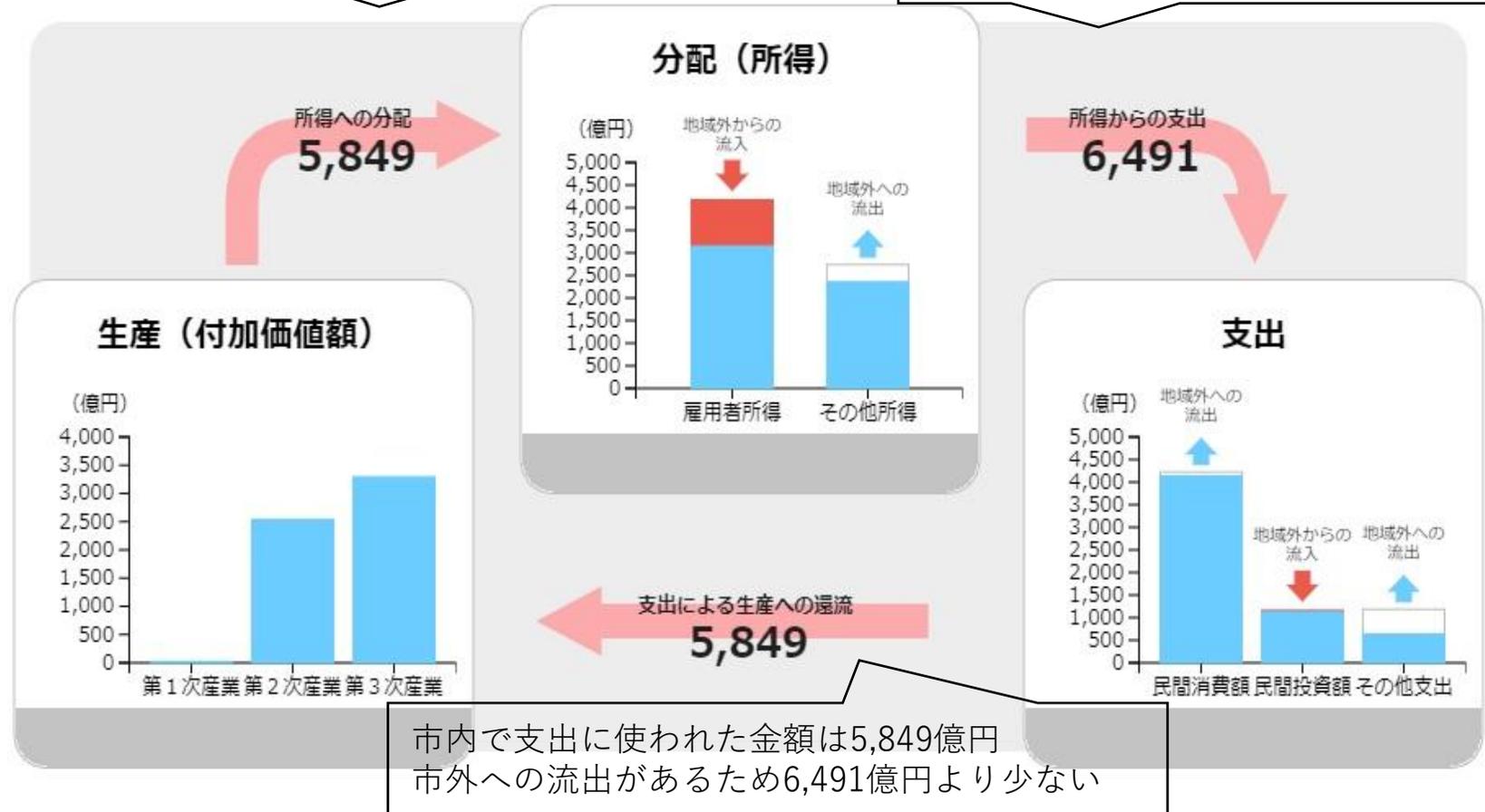
地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や企業の所得として支出されて、再び地域内企業に還流する。

この流れを示したものが地域循環図である。

市外への流出のうち、「その他支出」の割合が大きく、約650億円にもなる。

秦野市の企業は5,849億円の付加価値を生み出している

付加価値のうち、支出に回されるのは6,491億円
市外からの流入があるが、市外への流出の方が小さいため付加価値額の方が小さい



5. 地域経済循環

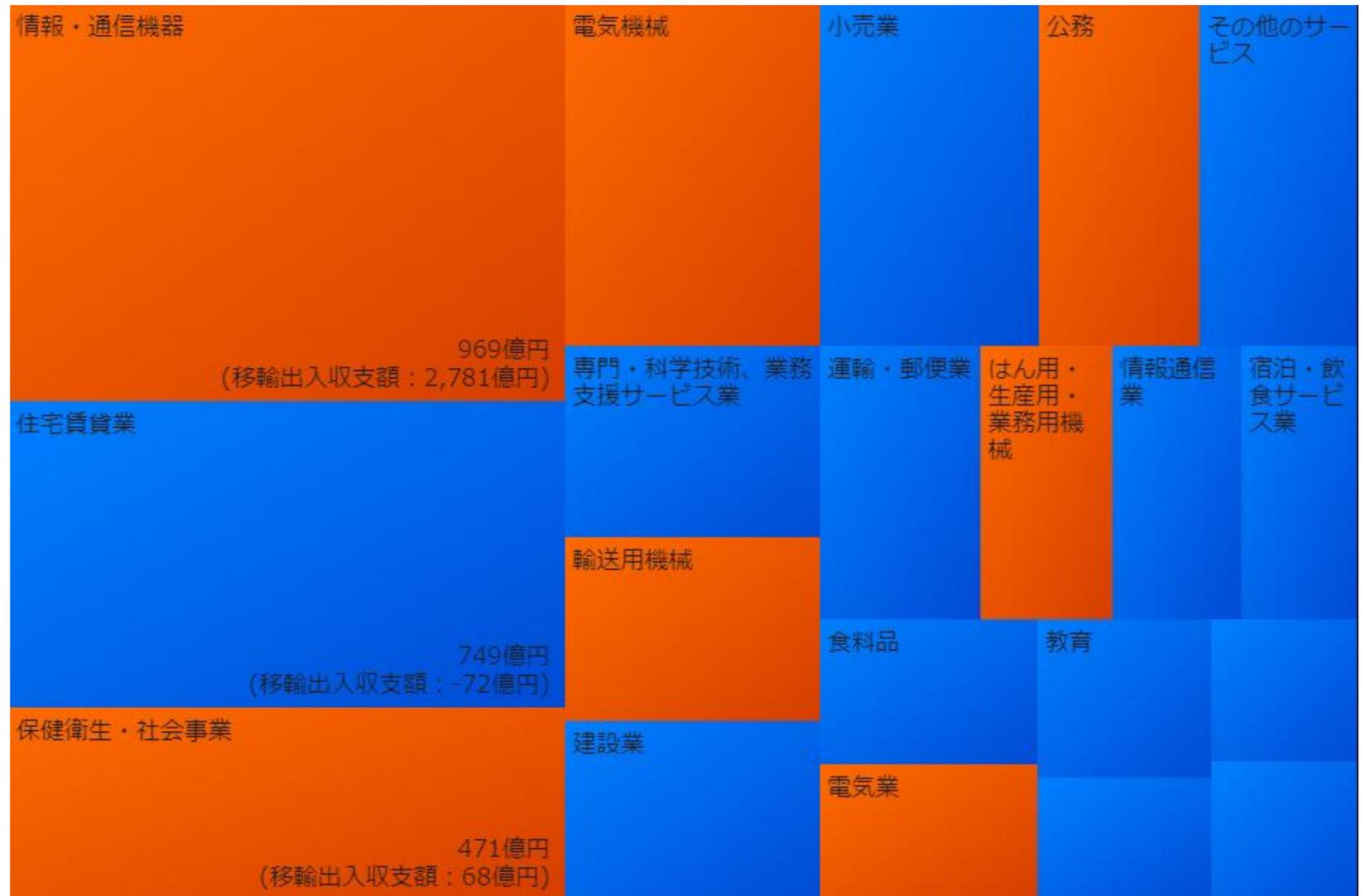
総額：5,849億円

生産分析(2018年)

前ページの生産（付加価値）の内訳を面の大きさで示したグラフである。

付加価値が高いのは「情報・通信機器」「住宅賃貸業」「保健衛生・社会事業」である。なお、グラフの色は、赤色が「域外に移輸出して稼いでいる産業」、青色が「域外からの移輸出に依存している産業」を表している

赤色と青色で、青色の方が多く、市外へのお金の流出が多いことがうかがえる。住宅賃貸業が移輸出入収支額のマイナスが大きい。



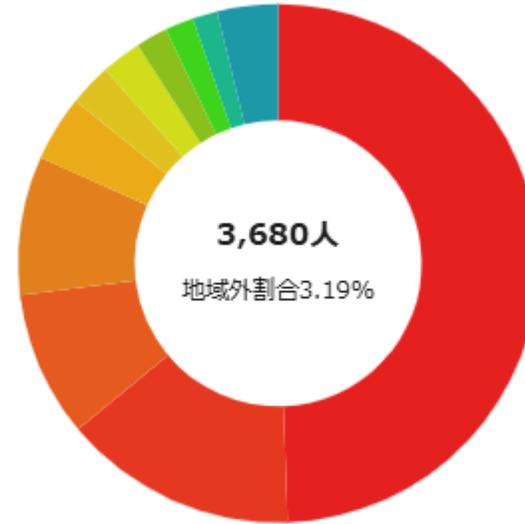
6.まちづくり・観光

From-to分析(滞在人口) (2023年6月)

休日、14時にどの都道府県から観光客等が来ているかを示したグラフである。

東京都が49.43%と最も多く、静岡県14.51%、埼玉県9.10%が続く。

東京都と静岡県が多いことは、東名高速や小田急線による恩恵と思われる。埼玉県は、外環道の開通で東名高速へのアクセスが容易となったことによる影響と思われる。



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 東京都 1,819人 (49.43%)
- 2位 静岡県 534人 (14.51%)
- 3位 埼玉県 335人 (9.10%)
- 4位 千葉県 318人 (8.64%)
- 5位 愛知県 151人 (4.10%)
- 6位 茨城県 97人 (2.64%)
- 7位 山梨県 92人 (2.50%)
- 8位 長野県 72人 (1.96%)
- 9位 大阪府 66人 (1.79%)
- 10位 栃木県 57人 (1.55%)
- その他 139人 (3.78%)

6.まちづくり・観光

目的地検索ランキング (2023年3月・休日)

自動車で経路検索された回数が多い場所をランキング形式で示したグラフである。

「ヤビツ峠」「神奈川県立秦野戸川公園」「イオン秦野ショッピングセンター」「大秦野カントリークラブ」の検索回数が多い。

